

酒造家 故黒田義平事歴

中新川郡西加積村下梅沢

嘉永四年一月八日生

大正四年十二月十七日死去

事

歴

氏は明治三年組合頭役を拝命し、明治二十二年五月町村制実施と共に西加積村村長に当選、大正四年の死に至る迄各再選重任し、任に在ること二十年間、克く村治の発展に努力し、模範村の指定を受けた。郡会議員は明治二十九年以来四期間勤続し、其間 郡参事会員の名誉職に在ること二回、明治三十三年衆望を担つて富山県会議員に当選、尋て県参事会員の榮職を荷い、克く県政に参与され県政政治界の第一任者として県政史上に記録を止め、尚村会議員、学務議員、郡農會議員、村農會議員等の要職を歴任し、其間、無限責任西加積村購買販賣組合の設立に尽力した。又立山鉄道株式会社の敷地問題に奔走努力し、同村小学校の新設、上市川築堤工事の完成や其他の公共事業に尽瘁せられ、又日露戦役の際、氏は国債募集に率先して尽力し、其の功に依り勲七等に叙せられる。又福岡県より三坂藤助氏を聘して履物用藤表製造を村民に伝習せしめ、以て農家の副業となす等、常に村政並に地方自治の拡張発展に尽瘁せられ、其の功多大にて監終褒章を賜わり、其の他受章枚挙に遑なし。大正四年十二月死去するや村葬を以て葬儀を営み、大正七年村民一同その遺徳をしのび銅像を建立、時の内務大臣男爵後藤新平之に「徳業為師無善為師」と題字してその功をとしえに顕彰した。

(富山県郡会議員宝鑑・富山県会史による)

銅像経過

昭和十九年大東亞戦争、戦局愈々熾烈を極め戦時物資極度に窮乏するや、父知義、当局の命に依り率先祖父の銅像を供出し台座のみ残して今日に至った。爾来三十七年残っていた台座も損傷次第に甚しく危険になったので町内会の御同意を得て下梅沢三六〇番地の現在位置に移転建立した。